

アカデミックライティングI

授業の目標

- レポートを書くうえでの基本的技法(出典の表記法, 参考文献の表記法・スタイル)の習得
および読む人にとってわかりやすく, 根拠に基づいた, 説得力のあるレポートを書く能力を養う。

レポートの型を学ぶ



- 「型」があるから「型破り」、型がなければ「形無し」(十八代目中村勘三郎)

01 学術的文章とは どのような文章か

1. 作文とレポート論文の違い

- 作文

- 自分自身の経験したことや感じたことを書く、出来事や感想が中心の文章

- レポートと論文

- あるテーマに関して、**問いを立て**、それについて**客観的根拠**をもとに主張を展開し、最終的に問いに対して答える文章

2. レポート・論文の種類

1. 説明型レポート

- 授業やテキストの内容を理解したかどうか説明する

2. 報告型レポート

- 実習での成果を報告する

3. 実証型レポート

- 実験や調査の結果に基づき実証する

2. レポート・論文の種類

4. 論証型レポート

- 与えられたテーマについて論証する

5. ブックレポート

- 与えられた本を講読し、内容の要約、著者の主張や論点をまとめたりする。それに加え、意見・感想が求められる場合もある

6. タームペーパー(Term Paper):

- 「学期レポート」で、その学期の集大成として、学期末に科目ごとに提出するレポート

3. アカデミックライティング扱うレポート

- アカデミックライティングで扱うレポート:
 - 論証型レポート
- 論証型レポートに必要な3要素
 - ① テーマに対して自分なりの視点を持った疑問点（問い）を示す「問題提起」
 - ② それに対する答えとしての「主張」
 - ③ 主張の正しさを示す「根拠」

問いとは

- 答える行為を前提とし、筆者が立てるもの
- 単なる疑問とは異なる
- 調べればすぐに答えが出るもの、誰がやっても同じ説明になるものは「論文の問い」にならない

練習問題：次の文章のうち論証型レポートと言える文章はあるか？

- A. 日本のスポーツ現場では、体罰問題が取り上げられているので、将来暴力はなくなるかもしれない。
- B. 日本のスポーツ現場では、将来暴力はなくなるのか。
- C. 日本のスポーツ現場ではで将来暴力はなくなるのか。筆者はなくならないと考える。
- D. 日本のスポーツ現場ではで将来暴力はなくなるのか。筆者はなくならないと考える。なぜなら、体罰を経験した人、体罰を経験していない人の多くが体罰はあってもよいと考えているからだ。すなわち、日本では体罰を肯定的に捉えている人が多いことから、体罰はなくならないと考える。

ポイント

- レポートは「問い」を立て、問いに対する「答え」を導くもの
- 答えを導くためには、出所のわかる客観的根拠が必要
- 客観的根拠と自分の考えをはっきり区別することが大事（事実と意見の書き方）

4. レポート・論文の構成

- 論証型のレポートの構成は「序論・本論・結論」の3部構成
- 「序論」
 - レポートが扱うテーマ・問題, および結論の見通し, **問いが必要**
- 「本論」
 - 客観的事実(根拠)を提示しながら議論を展開し、結論(自分の主張)を導き出す
- 「結論」
 - 全体をまとめる(問いに対しての解答。本論の要約と結論)
 - 論じられなかった問題や今後の課題

5. レポートの語彙・書式・体裁

教科書チェックリスト(p13)

□書き言葉で書いてある。(話し言葉で書かれていない)

書き言葉	話し言葉
なぜなら	だって
ではないか	じゃないか
しかし・だが	けど・だけど
よって・したがって	なので

5. レポートの語彙・書式・体裁

教科書チェックリスト(p13)

□文末が「である」,「であろう」になっている。

- 「です・ます」調になっていない(直接引用部分はこのぞく)。
- 「です・ます」調と「である」調が混在していない。

心得 II 書式・体裁・文法

- 4語彙
- (中略)
 - 固有名詞などの単語の定義は、終始一貫し統一する。
 - 例) 携帯・ケータイ・ケイタイ
- (中略)
 - 一人称は「私」「俺」「僕」「自分」ではなく「筆者」と書く。
 - ？や！などの記号を用いて感情や感嘆を加えることなく、論理的にデータを検討することによって読む人を納得させる。

心得 II 書式・体裁・文法

7 数値・年号

- 横書きの場合は、数字は半角アラビア数字を用いる。
- 横書きの場合は、アルファベットは半角を用いる。
- 慣用的な語、または数量的な意味が薄い語は、漢数字を用いる(一般、一部、一時期、七つの子)。

漢字とかなのかき分け

① 接続詞・副詞・指示語は、ひらがなで書く

- 接続詞：然し→しかし、従って→したがって
- 副詞：既に→すでに
- 指示語：此の→この、其の→その、或る→ある

② 「とき・こと・もの」を形式的に表現するときはひらがなを使用する

- 例：～する時→～するとき、～する事→すること

アラビア数字と漢字のかき分け

- 基本ルール

- 任意の自然数が入る場合、アラビア数字を用い、任意の自然数が入らず、一、二、三などに限って使う場合や慣用句の場合には漢数字を使用する。

- 例

- 1人の男性(n 人の男性といえる)
- 2枚のドア(n 枚のドアといえる)
- いま一つ理解できない(いま二つなど、 n といえない)
- 「三人寄れば文殊の知恵」という(慣用句)

アラビア数字と漢字のかき分け

- 注意点

- 任意の自然数が入るけれども、実際には一、二、三程度であることが多い場合は、どちらを用いても問題ない場合がある。ただし、レポートの中では統一する。

- 例)

- 「第一に～」、「第二に～」は3つ程度であれば、漢数字を用いてもよい
- 「第1に～」、「第二に～」と1つのレポートの中で混在しない

□ 列挙の区切りとしてのナカグロ(・)と読点(、)あるいはカンマ(,)のかき分け

- 列挙の順序を入れ替えてもかまわないときは、列挙の区切りにナカグロを使用し、順序を入れ替えないときには読点あるいはカンマを用いる。
- 例
 - 信号は青、黄、赤の順で点灯する。○
 - 信号は青・黄・赤の順で点灯する。×
 - 信号の色は青・黄・赤の三色である。○

レポート・論文のルール

1. **自分の言葉で書く**: 出典のない丸写しは絶対にやってはいけない
2. **自分の言葉と他人の言葉を分けて書く**: 正しく引用する
3. テーマに関する「論点」、主張、根拠を書く:
感想や心情は不要

【導入問題】指摘観点

- 1) 誤字脱字
- 2) 書き言葉でなく、話し言葉を使っている
- 3) 文末表現
- 4) 自分の意見がぼかして書いてある
- 5) 曖昧な表現になっている
- 6) 主語と述語の対応関係
- 7) レポートではない書き方(手紙、ビジネス文章)
- 8) 並列関係
- 9) 根拠が明示されていない

6. レポート作成の手順

- 1) テーマについて情報を集め、基礎知識を得る
- 2) テーマに関して「問い」を設定する
- 3) 「問い」を解決するための情報を集める
- 4) レポートのアウトライン、章立てを考える
- 5) 書く
- 6) 推敲する